

学年	1 年	これまでの取組に関する「成果」と「課題」 【成果】 授業中に発表する際のきまり（返事をする、丁寧な言葉で話す等）ができるようになってきている。 毎日の宿題に取り組むことで、家庭での学習習慣が身に付き始めている。 2年生との学校探検など、少しずつではあるが、他の学年との交流が楽しめるようになってきている。 【課題】 学習内容の定着が不十分な児童が多く、既習内容でも繰り返し指導する必要がある。 文字や計算の繰り返し練習は、こつこつと行うが、読解に苦手意識をもつ児童は、問題自体に取り組めないことがある。
----	-----	--

教科	観点別分析	教科ごとの課題	教科等ごとの指導方法等の改善策
国語	○知識・技能	○語彙が乏しく、文章を読んで理解することが難しい。 ◎言葉のキャッチボールを続けることが難しい。	○読み聞かせや読書の機会を増やしたり、言葉集めをしたりする等の活動を継続して行っていく。動作化を取り入れる等して、文章の意味を理解できるようにする。 ◎「そうなんだ」「いいね」等どんな言葉で返事をすればよいのかを具体的に指導する。また、話型を提示したり、手本を見せたりして、話したり、聞いたりする力を身に付けさせていく。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
算数	○知識・技能	○就学前の経験により、数の概念形成や計算能力の差が大きい。 ◎文章問題を正しく読み取る能力に差がある。	○タブレットの計算アプリを通して、楽しみながら学習が定着できるようにする。 ◎問題文を読み、大切な言葉や数字を見付け、立式する力を付ける。問題を解決する際に、自分の考えを言葉で説明する機会を設ける。数の概念やくり上がり、くり下がりの計算が確実にできるよう繰り返し練習をしていく。また、具体的場面を取り上げることで、式の意味を的確に理解できるようにする。 ○自分の考えを持ったり、それを伝えたりする能力を育成するための演習を増やす。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
体育	○知識・技能	○室内で過ごす児童が多いことから、児童の体力が低下し、様々な活動の経験が少ない。 ◎自己の運動の課題を見付けることが難しい。	○休み時間と体育の時間をできる限り使って、身体を動かす時間を確保する。 ◎タブレットを活用し、動画を撮影するなど自分の身体の動かし方を確認する活動を取り入れる。 ◎子供同士で運動を見合い、伝え合う活動を入れる。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
生活	○知識・技能	○季節の移り変わりを感じることや、外での体験活動の経験が少ない。 ◎今までの経験に差があり、気付きにも個人差がある。	○友達との活動、他学年との関わりのある活動を意図的に設定する。 ◎体験活動の後の振り返りで、気付きを共有させる。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
特別の 徳科 道	○知識・技能	○自分の生活と関連付けて考えることが難しい。 ◎自分の考えを進んで発表する児童が多いが、消極的な児童も見られる。	○挿絵等を活用しながら教科書の話の内容をよく理解させ、十分に話し合わせる。その上で児童の実生活に関連する事象を想起させるような説話を行う。 ◎まずはペアや3,4人の少人数のグループで話し合わせることで自信をもたせ、全体での発表につなげさせる。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
音楽	○知識・技能	○体調や気分によって技能を十分に発揮できないことがある。 ○楽曲の特徴等を言葉で表現することは苦手である。 ◎概ね意欲的であるが、友達の演奏に耳を傾ける意識がやや劣る児童が見られる。	○根気よく反復練習を積み重ねる。 ○様々な音・旋律・リズムに合わせて体を動かす活動を多く取り入れ、曲調・曲想を実感させた上でそれを表現する言葉を紹介し、音楽に関する語彙を増やすように指導する。 ◎一人または少人数で発表する機会を設定し、それによって、自分にはない表現をする友達がいることに気付かせ、一人一人の表現の幅を広げるとともに協働することに対する意欲を育てる。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
図工	○知識・技能	○正しい道具の使い方が身に付いていない。 ◎自分のイメージをもちながら、どのように活動したり、表したりするかを考えることに差がある。	○ハサミ、のりなど、基本的な道具の正しい使い方を指導する。図工以外でも道具を使用する場面を増やすことで使い方を覚えさせる。 ◎イメージの共有をしてから、個人活動に入るようにする。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
外国語 体験	○知識・技能	○語彙の定着に差がある。 ○英語と日本語の音の違いが分かっているにもかかわらず表現するのが難しい。 ◎ほとんどの児童が英語を楽しんで学んでいる。	○簡単な名詞や動詞も絵やジェスチャーを用いて指導し、反復学習を行って定着させるようにする。 ○口の形や舌の動きが視覚的に分かる教材を用いて指導したり、フォニックス教材を活用したりしてより正しい発語を身に付けさせる。 ◎歌やダンス、具体的な生活場面を想定したごっこ遊びなどを通して、多くの英語に触れさせ、楽しみながら自然に英語でコミュニケーションをとれるようにする。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		